

「日本英語英文学会」設立25周年を迎えて

日本英語英文学会（The Japan Association of English Linguistics and Literature, 略称JAELL）の設立25周年と日本英語英文学会の学会誌『日本英語英文学』（*Studies in English Linguistics and Literature*）の記念すべき第25号にあたる本書の刊行を皆様と共にお祝いできることを大変嬉しく思います。

JAELLは設立以来四半世紀という節目の年を迎えることができましたが、これもひとえに学会員の皆様方のご尽力、ご助力があったからこそだと思います。皆様方のお力添えに心より感謝申し上げます。そして、これからも本学会の発展のためにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

私がJAELLに入会したのは2001（平成13）年のことでした。その当時、私は40歳を過ぎてからアメリカの大学院に留学し、年甲斐もなく学生生活を送っておりました。ある授業の課題で書いたエッセイを前の職場の同僚であり、その当時、日本英語英文学会の初代会長でもあった鈴木繁幸先生（現東京家政大学）にたまたまお見せしたところ、是非論文として書き直し発表することを勧められました。その際、紹介して頂いたのが本学会であり、人生で初めて書いた論文を投稿したのがJAELLの学会誌『日本英語英文学』でした。その時『日本英語英文学』に掲載して頂いた論文は、今読み返せば、稚拙で赤面してしまうレベルのものですが、私にとってはかけがえのない思い出の一本となりました。そして、このことをきっかけに、研究者という道も本気で考えるようになりました。そういう意味で、私の研究者としての第一歩は『日本英語英文学』から始まったと言っても過言ではありません。アメリカで修士号を取得後、イギリスで留学生生活を継続することになりましたが、その期間中も論文を定期的に学会誌に掲載して頂き、これらの掲載論文は、博士号取得後、日本での就職活動の際に、研究業績として大変役立ちました。日本英語英文学会を紹介して下さった鈴木繁幸先生と『日本英語英文学』にはどんなに感謝してもし過ぎることはありません。

本学会は、会員の方たちの大変熱心で真面目な取り組みによりとても堅実で質の高い学会として発展し今日に至っております。年次大会は会員の方たちの先端的な研究成果の発表と活発な意見交換の場となっており、学会誌『日本英語英文学』は学術的な質を維持するために査読制度を採用しております。これは私の個人的な感想ですが、本学会の最大の魅力は、初学者や若い研究者でも門を叩きやすい「敷居の低さ」にあるのではないかと考えております。研究者を志す人たちに発表の機会を与え、彼らの可能性を育てていくことこそ本学会がこれまで実践してきたことであり、これからのスタンスを是非継承して行ってほしいと、この学会に育てて頂いた者のひとりとして、切に願ってやみません。これから研究者の道を歩もうとされている研究者の卵の方や大学院生、論文の出版や研究発表の機会に恵まれずその機会を切望しておられる方は是非本学会で研究業績を作られ、本学会から研究者としての第一歩を踏み出して頂きたいと思っております。

JAELL 創設25周年記念号の刊行にあたり、本書の出版を快諾して下さったDTP出版の鳥居有一社長、大変お忙しい中査読にご協力して下さった諸先生方、本書の編集業務に膨大な時間とエネルギーを注がれてきた本学会の副会長であり編集委員長の野村忠央先生には深く感謝しております。本当にありがとうございました。また、本学会の設立の立役者であり、学会の運営にご尽力されてこられた松倉信幸先生と本学会の連絡・会計業務全般を担ってこられた事務局長の土居峻先生にもこの場をお借りして改めて感謝の意を表したいと思っております。いつも本当にありがとうございます。

最後になりましたが、日本英語英文学会が、この先5年、10年と新しい歴史を刻み、更なる発展を遂げることを心より祈念しております。

2015年10月

会長 渋谷和郎